

人とのつながり、地域とのつながりを通して

北海道留辺蘂高等学校 校長 池田 哲也

担当者 教諭 清水 淳一

1 本校のESDの特徴

本校では、ユネスコスクールに加盟した平成25年度より、各教科で授業内容を見直し、キャリア教育の観点とESDで求められる能力との関連づけを行ってきた。そして、学校教育全体にESD活動をより浸透させていくために、年間のESD取り組み目標を設定し、平成30年度より本校独自のESDカレンダーを作成している。以降、毎年研修を実施し、全職員で共有することで、学校全体として意識的に取り組めるよう工夫している。

2 活動・全体計画

各教科の年間指導計画にSDGsのマークを盛り込むことで、授業の中で生徒に身に付けさせたいことを意識させるよう行っている。また、17項目のマークをシート化し、授業で掲示することでより身近なものとして捉えさせるよう取り組んでいる。年2回「SDGsふりかえりシート」を作成して、各教科での活動を総括し、改善点や課題を次の活動にどうつなげていくか具体的に洗い出し、PDCAサイクルでの工夫を行っている。

3 活動事例

本校は、「社会で自立し共生できる生徒」を目指す生徒像とし、キャリア教育とESD理念の双方を意識した教育活動を行っている。また、「ダイバーシティ留辺蘂ハイスクール」の理念のもと、SDGsの理念と関連付け「誰一人取り残さない教育」を目指す、生徒一人ひとりのニーズに応えられるよう、教育活動にあたっている。

総合学科として「国際」と「福祉」の2つの系列、そこから「国際理解」「環境」「福祉」「保育」「ビジネス」の5つのグループを展開し、自らの進路実現に向けて主体的に学ぶことができる環境を整えるとともに、他者との関わりの中で学ぶ協働的な学習の機会を設定している。

また、各教科・分掌・年次・特別活動等で、年間のESD取り組み目標及びSDGsの項目を柔軟に取り入れ、実践を行っている。学期末に振り返りアンケートを実施し、その結果を教職員全体で共有することで、更なる活動の充実を図っている。

今年度は、次に挙げるような活動等を行った。

①福祉・家庭科に係る学習

るべしべの白花豆クラブと連携し生徒達が栽培・収穫方法を体験することで地元特産品の魅力や農業に携わる人々との交流を深めた。

②環境に係る活動

株式会社菅野養蜂場の協力のもと、今年度より学校設定科目「自然環境研究」において養蜂を始めた。環境指標生物であるミツバチを飼育することでSDGsに基づく環境の基礎についての学習を行った。

③国際理解に係る学習

北見市の魅力づくりをテーマに、北見市より姉妹都市であるロシアポロナイスク市との提

携50周年（令和4年）を祝う交流イベントへの参加の要請を受け、地元のJAきたみらいと連携し赤タマネギを使ったレシピを考案した。赤タマネギ普及のためのリーフレットを作成し、地元のスーパー等で配布する計画である。また、北見市の観光名所をロシア語で紹介するリーフレットも作成中で、交流イベント時に配布予定である。

④ ドローンを用いた学習

桑原電装株式会社の協力のもと、1年次「産業社会と人間」の授業の中で、家庭用から大型産業用までその活用方法について学習した。

⑤ 北見市ほほえむ希望プロジェクト

2年次の「総合的な探究の時間」において、北見NPOサポートセンターと連携し、高校生が考える20年後30年後の住みよいまちづくりをテーマに障がい者雇用促進のための取り組みを行っている。地元特産の白あんを使った食品をキッチンカーで販売することを目的に進めている。次年度、形になるよう努めている。



4 成果と課題

各教科の年間指導計画にSDGsの項目を盛り込むことで、教員と生徒がともに同じ目標のもと学習活動を推進していくことができた。今後も年2回の振り返りを行い、実践状況を確認していきたい。

地域と交流する観点では、市内の幼稚園・保育所、社会福祉協議会やまちづくり協議会、JAやNPO法人、諸団体や市民の方々と連携を図り、地域に密着し協働した多様な教育活動を実践していく。

次年度は、コロナ禍の中実施できなかった北見工業大学から留学生を招き、自国の文化等について講義をしていただくなどの異文化交流も進めていきたい。